

学部教育目的・目標および3つのポリシー

<経営学部経営学科>

教育研究上の目的および教育目標

本大学経営学部は、経営学、マーケティング、会計学、経済学等に関する教育研究活動を通じて、広い国際的視野を持ち実践的な知識と技能を備え、創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成することを目的とする。

この目的のため、自他や社会が抱える未解決の課題に果敢に挑戦することを通して、たくましく生きる力を育成することを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

山梨学院大学では、『たくましく生きる力』を育成すること」を達成するために、学生が以下の能力を修得することを大学の学位授与方針とする。

全学 DP	ディプロマ・ポリシー
DP 1	【実践的な知識・技能】 ①経営・マーケティング・会計・経済の実践的な知識・技能の活用力を身に付け、社会の諸問題を複合的な視点から考察することができる（把握する力）。 ②社会の諸問題を理解するために、情報通信技術（ICT）を活用して必要な情報を収集し、論理的・批判的に思考し、創造的に判断することができる（考え抜く力）。 【創造力と行動力】 ③グループ活動やディスカッションを通じて課題解決に主体的に参加することができる（協調する力）。 ④自己および社会を改善する方法を考え、それを実現するために失敗と挑戦を繰り返すことができる（挑戦する力）。 ⑤説明・提案を行うためのプレゼンテーションスキルを持ち、問題・課題の解決のために主体的に行動することができる（行動する力）。
DP 2	多様な背景を持つ人たちと、母語や母語以外の言語で、目的に応じた意思疎通ができる。
DP 3	自ら目標を設定し、達成するまでやり抜こうとする姿勢を持つ。
DP 4	自己を理解し、他者との良好な関係性を構築しながら、自らの思考と行動を決定できる。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

山梨学院大学では、学位授与方針に基づき、以下のとおり教育課程を編成・実施する。

カリキュラム・ポリシー	
教育内容	1. 学部専攻科目においては、経営学と隣接領域に関する実践的な知識・技能の活用力を学ぶ。また、演習系科目では、プロジェクト型学習を通じて、調査・企画立案・プレゼンテーションの技能とプロジェクトを実行する創造力・行動力を身につける。 2. 学部専攻科目以外においては、各科目群の履修を通じて、全学 DP に掲げられた能力を身につける。
教育方法	1. 経営学と隣接領域の科目においては、講義によって知識・技能を伝授するだけでなく、知識・技能の活用力を育成するためにアクティブラーニング手法を用いた授業を実施する。 2. 演習系科目においては、調査・企画立案・プレゼンテーションの技能と創造力・行動力を育成するために、プロジェクト型学習を実施する。
評価方法	1. 経営学と隣接領域の科目においては、知識・技能の定着を測るだけでなく、知識・技能の活用力をパフォーマンスで評価する。 2. 演習系科目では、プロジェクトの実行過程における行動評価とプロジェクトの成果に対するパフォーマンス評価を行う。 3. 各授業の評価基準はシラバスと授業ループリックによって定める。 4. 卒業判定は、経営学部履修規程に定められた基準によって行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

山梨学院大学では、学位授与方針に照らして、次のような意欲と能力を持つ学生を受け入れる。

アドミッション・ポリシー	
経営学部では、地域経済の担い手として、人々から信頼され、社会において幅広い分野で活躍できる自律的な能力を持った人を育成するため、高い知的好奇心に支えられた基礎的な学力を持った入学者を求める。	
基礎的な知識技能	大学での学修で必要となる基礎的・基本的な知識・技能、特に、国語（文章の読解や作成）、数学（論理的思考や計算）、地理・歴史・公民（社会の仕組みの理解）の基礎知識を備えた人

思考力・判断力・ 表現力等の能力	大学での学修、特に、企業事例の分析、地域課題への提言、インターンシップ等の能動的な学びに必要な高い知的な好奇心、問題を分析する力、自らの考えを的確に伝える表現力を備えた人
主体性・多様性・ 協働性	幅広い分野に興味・関心を持って積極的に大学での学修に取り組み、教員・学生・社会人と円滑にコミュニケーションをとって自ら進んで学ぼうとする意欲を持った人